

にいはま女性ミーティング

～ 変わる、変える、わたしの暮らし、働き方 ～

- 【日 時】 平成28年11月12日（土）10:00～12:00
【場 所】 ふれあいプラザ2階 第1研修室
【参加者】 新居浜に在住または勤務されている18歳～45歳までの
女性12名（20代1名、30代7名、40代4名）
【講 師】 えひめ女性財団 常務理事 越智 やよい氏



「にいはま女性ミーティング」開催の経緯について

このところ女性活躍、一億総活躍といわれており、その実現のために女性にとって、新居浜にとって、大切なことや必要な事は何かというニーズをつかむことが今まで以上に必要になってきている。また、女性だけを対象とした意見交換会を行う機会があまりないこともあり、昨年に引き続き「にいはま女性ミーティング」を行うことになった。

今回は、3人1組でのグループワークを通して自分の考えや想いを参加者全員で意見交換し、これからの女性活躍について考えてみる。

1. 自分の生き方を選んでいるか？（女性であることで断念していることはないか？）

まず、グループ内で自己紹介をし、その後、現在の自分の生き方を振り返って希望通りの生き方が出来ているか、結婚や出産などを機に制限や断念していることはないかなど、それぞれの思いをグループごとに紙に記入していった。参加者のほとんどが、夫や親など周囲の協力があるため、自分の生き方についてある程度は自分で選ぶことが出来ている。しかし「仕事の時間や内容」については家事や育児との両立のため、自分の希望するものではないという人が多かった。

2. 周囲の性役割態度への認識は？

次に男女での役割認識について、7つの項目を見て、まずは直感で自分・周りの人が「そう思う・思わない」かを答え、その後グループ内で意見をまとめた。基本的には参加者の答えは同じ傾向であり、どのグループも「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という少し前までの考え方の意識は無くなってきているようである。ただ、子育てに関しては「男の子らしく・女の子らしく育てる大切さ」について意見が割れた。自分たちは性別に縛られずに育てているつもりだが、周囲の親などは「男女に合った育て方が必要」と思っている方が多い。これは、いまだに社会の意識が男女平等になっていないためである。子育て以外にも自分は意識していなくても、周りの人たちが女性（母親）に対して期待しているため、母親の家庭認識意識が強く家庭は夫の家事参加が少ないというデータもある。実際参加者に、男性も同じくらい家事・育児に参加できているかと聞いてみたが、数年前よりは男性も家事・育児に携わる人が増えてはいるが、まだまだ女性が背負い込んでいる家庭が多かった。



「今後、女性が更に活躍していくためには男性への協力や理解が今以上に必要だ。そして、夫への教育もしていかなければ。」という意見も出た。

3. なぜ今女性活躍推進が必要なのか？

ところで、なぜ今になって女性活躍と言われ出したのかについて、それぞれグループ内で考えてみた。多かった意見は、「人口減少と高齢化・少子化問題」。また「夫一人だけが働くのは収入も減り、将来が不安」との声もあった。なかには「女性の方が要領良く、アイデアも豊富で成果を上げることが出来るから」といった意見も出た。



ここ最近では男女関係なく、子育てに加え介護（ワーキングケアラー）などの増加で大半が制約社員になっているため、企業は人手不足になり日本経済も低迷している。そんななか、企業にとっては人材活用のすそ野を広げ、より多様な人材能力を活かしていくことが求められている。働きたくても働けないといった意欲ある女性が活躍でき、働き続けられる環境を整備することが今後の課題にもなっている。

4. 男性の働き方改革を…（男性にワーク・ライフ・バランスは必要？）

「女性が活躍していくためには、まずは男性の働き方を変えていく必要があるのではないか？」という質問に対し、全員が「必要」だと感じていた。男性（夫）自身のためはもちろんだが、家事や子育ての協力をしてもらい女性が働き続けるためや、夫婦の関係を良好にしていくためにも、やはり男性にも必要という答えになった。今後は男性も子育てに加え介護との両立が必要になってくるため、職場での業務改善や相談しやすい風土づくりも重要である。

5. 働く女性の課題や不安は…？

「働きたい」「働いてほしい」と言われても、現実には職場の理解や周囲の協力、子どもの預け先や勤務形態など、様々な悩みが出てくる。

- ・求められるもの（仕事も家庭も）が多くなりプレッシャーがある。
- ・制度があっても取りにくい。（産休・育休・介護など）
- ・時短で働いていると、研修の希望を出しても行かせてもらえない。
- ・収入が増えても、保育料が高く何のために働いているのか分からない。
- ・40代から就職したが、会社で出世できるのか？部下たちも働きやすい環境をつくってあげたい。
- ・長時間勤務や長距離通勤のため、子どもの保育時間が長いので罪悪感がある。
- ・自分が病気になった時、子どもの預け先の不安があるので子育てサポートの見直しをして欲しい。
- ・家庭の事情や状況を聞いてくれ、話しやすい職場の雰囲気作り。

などの女性ならではの様々な課題や不安が出てきた。これらを解決し、女性が心地よく働きやすい職場になっていくことを求めている。



6. 女性活躍推進のメリットは？

上記のような課題や不安もたくさんあるが、女性が社会で活躍していくうえで自分にとっても、企業にとってもメリットはたくさんある。女性は男性に比べて、コミュニケーション能力に優れている人が多い。家事や育児を通して色々な人と関わりを持ち、自然と人とのつながり方を身に付けているのでたくさんの情報を得る事もできる。そのため、職場内での気配りができ職場全体が明るくなり雰囲気も良くなる。それ以外にも、女性ならではの視線から物事を考えたりアイデアを発想したりと、仕事を進めていくことが出来る。企業としてはプラスになる事がたくさんある。また、働くことによって、自分自身も生き生きとし、充実感に満たされ、家族もそれぞれ自立していくことができる。そ

のためにはやはり家族に協力してもらうことは大前提だ。

企業は、今以上に職場環境を整え、いつまでも働きたいと思えるような環境づくりを整える事が必要であり、重要ではないだろうか。

7. 今回のミーティングを通しての感想

- ・自分にも周りにもいい影響を与えられる言動をしようと思う。
- ・子どもに伝え、夫にも伝え教育したい。
- ・周りが協力し合い、自分自身もして欲しいことをアピールする。
- ・周りの方にも協力してもらい、自分自身でため込まないようにしていきたい。
- ・家庭や職場でのコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・夫の協力（教育）の大切さが改めて必要だと感じた。自分以外の考えを聴けてとても良い時間を過ごせた。
- ・夫を少しずつ教育して楽しいおふたり様生活を目指し、仕事も65歳まできっちりして目指すは管理職！おもしろい仕事生活をする。
- ・「祖父母に預けられんの？」という考えをやめてほしいと常日頃思っている。自分の子どもは出来る限り自分でみたいけれど、自分の仕事、目標、したいことを精一杯やっている。
- ・職場環境の改善も必要だが、まずは自分の中での意識改革が必要だと感じた。どうしたいのか、明確なプランを持って生活していけたらいいと思う。
- ・皆が意見を言える会社に変えていきたい！働きやすい職場づくりを地域全体で考えていく。
- ・協力的な夫に感謝。理解ある同僚に感謝。その人たちが困っている時には私も協力していきたい。
- ・夫の協力や、それぞれが自立して家事分担なども男女区別なく出来るよう意識する。お互い思いやりを持って先の生活が出来るように。
- ・夫の教育強化!!子どもを預けられる場所をもっと充実させるべきだと思う。保育園のシステム、保育士の質のアップなど、働く女性をサポートできるように保育園のあり方を見直す必要があると思った。

今回参加していただいた方の思いや考えが、今後少しでも社会へつながるよう、まずは自分たちのできる事から少しずつ変えていきましょう。今よりもっと女性が自由に活躍できる社会が来ることを願って「にいほま女性ミーティング」を終わります。

